

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2017年第29週
(7月17日～7月23日)

- * 2017年7月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「新型インフルエンザ対策」も掲載しています。

平成29(2017)年7月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2017年29週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	70	55	70	40	1,853	278	12,278
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ					1	1	4
	細菌性赤痢				2	21	5	85
	腸管出血性大腸菌感染症	4	7	9	9	88	82	1,024
	腸チフス	2	1			6		22
	パラチフス		1			4		8
四類	E型肝炎	1		1	1	38	2	191
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	2			49	4	173
	エキノコックス症			1		1	1	19
	黄熱							
	オウム病							11
	オムスク出血熱							
	回帰熱		1			1		2
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							1
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}						1	51
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							1
	炭疽							
	チクングニア熱		1			2		2
つつが虫病					2	2	100	
デング熱	5	1	1	1	29	5	105	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	118
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1	1	3
	マラリア	1		2	1	10	1	24
	野兔病							
	ライム病			1		1	1	9
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		1
	レジオネラ症	3	4	5	5	73	43	817
レプトスピラ症			2		3	1	7	
ロッキー山紅斑熱								
2017/7/26集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 40件 患者 26件(肺結核 24件、その他の結核 2件)、無症状病原体保有者 14件、年齢は5歳未満 1件、20代 6件、30代 5件、40代 7件、50代 3件、60代 10件、70代 5件、80代 2件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 36件、ベトナム 1件、ミャンマー 1件、中国 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 1件、無症状病原体保有者 1件、菌種はゾンネ 2件、年齢は50代 1件、70代 1件、推定感染地はフィリピン 1件、ミャンマー 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 9件 患者 7件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO26 VT1 7件、O115 VT1 1件、O157 VT1・VT2 1件、年齢は5歳未満 5件、20代 1件、40代 1件、50代 2件、推定感染地は国内 8件、韓国 1件、推定感染経路は接触感染 5件、経口感染 2件、不明 2件であった。5歳未満のうち4件は同一保育園の園児であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

デング熱 1件 患者、病型はデング熱、血清型は不明、年齢は30代、推定感染地はタンザニアであった。

マラリア 1件 患者、病型は熱帯熱、年齢は50代、推定感染地はシエラレオネであった。

レジオネラ症 5件 病型は肺炎型 5件、年齢は40代 1件、50代 1件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は水系感染 4件、不明 1件であった。

※ 第28週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 2件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2017年29週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	5	4	1	4	119	14	609
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2	1	2		33	3	162
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2	9	4	111	23	836
	急性脳炎 *1	2	3	1	1	39	6	404
	クリプトスポリジウム症							7
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			2	10	6	108
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3		1	48	2	325
	後天性免疫不全症候群	10	8	18	10	259	14	763
	ジアルジア症					15		37
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	3	3	33	7	224
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		3		16
	侵襲性肺炎球菌感染症	10	3	8	2	279	24	2,095
	水痘(入院例に限る)	3	2	1	2	31	6	177
	先天性風しん症候群							
	梅毒	49	39	35	27	949	53	2,990
	播種性クリプトコックス症					10		77
	破傷風					2	1	58
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			6		52
	風しん		1	1		13		52
麻しん			1		19		168	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		12	

2017/7/26集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 病型は腸管 3件、腸管外 1件、年齢は20代 1件、40代 1件、60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、タイ又は台湾 1件、推定感染経路は同性間性的接触 1件、経口感染 2件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件 患者 4件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 1件、エンテロバクター・クロアカ 1件、クレブシエラ・オキシタカ 1件、セラチア・マルセッセンス 1件、年齢は5歳未満 1件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路・原因は以前からの保菌 2件、医療器具関連感染 1件(末梢静脈ライン)、胆管炎 1件、90日以内の海外渡航歴は無し 4件であった。

急性脳炎 1件 病原体はヒトヘルペスウイルス6型、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 2件 遺伝性-家族性CJD 1件、孤発性-古典型CJD 1件、年齢は50代 1件、80代 1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 10件 AIDS 3件、無症候キャリア 6件、その他 1件、性別は男性8件、女性 2件、AIDS患者の年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 2件、30代 3件、40代 2件、推定感染地は国内 8件、タイ 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 9件(同性間 7件、異性間 2件)、不明 1件であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 3件 血清型はすべて検査未実施、年齢は5歳未満 1件、80代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、不明 1件、ヒブワクチン接種歴は1回接種済み 1件、無し 1件、不明 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 2件 血清型はすべて検査未実施、年齢は70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は接触感染 1件、不明 1件、肺炎球菌ワクチン接種歴は不明 2件であった。

水痘(入院例) 2件 検査診断例 1件、臨床診断例 1件、年齢は30代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件、水痘ワクチン接種歴は不明 2件であった。

梅毒 27件 患者 18件(早期顕症梅毒Ⅰ期 10件、早期顕症梅毒Ⅱ期 7件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 9件、性別は男性 18件、女性 9件、年齢は10代 2件、20代 9件、30代 8件、40代 5件、50代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 26件、タイ 1件、推定感染経路は性的接触 27件(同性間 3件、異性間 21件、性別不明 3件)であった。

※ 第28週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性髄膜炎菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、水痘(入院例) 1件、麻しん 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2017年29週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2017年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		26週	27週	28週	29週		
小児科	RSウイルス感染症	76 0.29	116 0.44	178 0.69	223 0.85	261	264
	咽頭結膜熱	288 1.10	255 0.98	266 1.04	245 0.94		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	826 3.15	768 2.94	653 2.54	484 1.85		
	感染性胃腸炎	1,633 6.23	1,404 5.38	1,432 5.57	1,080 4.14		
	水痘	132 0.50	108 0.41	87 0.34	85 0.33		
	手足口病	620 2.37	1,090 4.18	1,764 6.86	2,290 8.77		
	伝染性紅斑	29 0.11	33 0.13	22 0.09	25 0.10		
	突発性発しん	176 0.67	168 0.64	164 0.64	156 0.60		
	百日咳		4 0.02	4 0.02	4 0.02		
	ヘルパンギーナ	131 0.50	314 1.20	412 1.60	516 1.98		
	流行性耳下腺炎	82 0.31	91 0.35	87 0.34	86 0.33		
	川崎病 *1	4 0.02	4 0.02	3 0.01	1 0.00		
	不明発しん症 *1	40 0.15	39 0.15	42 0.16	37 0.14		
	インフルエンザ	インフルエンザ *2	17 0.04	45 0.11	31 0.08		
眼科	急性出血性結膜炎			1 0.03	1 0.03	39	39
	流行性角結膜炎	31 0.79	30 0.77	28 0.72	31 0.79		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	2 0.08	2 0.08		2 0.08	25	25
	無菌性髄膜炎	2 0.08		1 0.04			
	マイコプラズマ肺炎	1 0.04	6 0.24	4 0.16	2 0.08		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2 0.08	1 0.04				
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4			1 0.04			
	インフルエンザ入院				2 0.08		

2017/7/26集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 都内保健所31か所中26管内で手足口病の報告数が警報レベルに達しています。
- ・ 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は例年よりも高いレベルで推移しています。
- ・ RSウイルス感染症の報告が一部地域で増加しており、今後の動向に注意が必要です。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2017年29週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	15	1	1	15		28		1		2	
6～11か月	54	15	2	105	3	234		44		52	
1歳	96	46	22	172	9	761	4	85		149	
2歳	31	27	40	141	7	482	1	17		103	4
3歳	17	54	55	95	6	286	1	4	1	57	6
4歳	9	38	72	93	10	207	4	3		59	10
5歳		22	61	83	10	116	6	1		36	11
6歳	1	16	47	53	10	53		1		23	12
7歳		3	44	47	11	36	2			6	11
8歳		8	42	39	8	25	3		1	8	6
9歳		4	21	31	3	18	1			8	9
10～14歳		3	44	90	7	13	1			7	15
15～19歳		2	7	16		1				1	1
20～29歳		6	26	100	1	30	2		2	5	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	223	245	484	1,080	85	2,290	25	156	4	516	86
先週比	45	-21	-169	-352	-2	526	3	-8		104	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		2									
6～11か月		6									
1歳		10			1						
2歳		6			1						1
3歳		1	1								
4歳	1	1	3	1							
5歳		3	5		1			1			
6歳		2	1		2						
7歳		1	9								1
8歳		1	3								
9歳		2	3								
10～14歳		2	3			1		1			
15～19歳					1						
20～29歳			1		7						
30～39歳			3		8						
40～49歳			2		6						
50～59歳			1		1						
60～69歳					3						
70～79歳			2								
80歳以上			1			1					
合計	1	37	38	1	31	2		2			2
先週比	-2	-5	7		3	2	-1	-2		-1	2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2017年29週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				0.67	0.33	0.33				0.67	
中央区	1.00	1.33	1.00	10.67	1.00	10.33		1.33		1.33	0.33
みなと	1.83	1.67	0.67	4.00	0.17	7.83		0.83		0.83	0.67
新宿区	3.88	1.50	1.38	3.13	0.38	7.25		0.38		1.75	0.25
文京	1.00	1.25	1.25	1.50	0.50	8.50				1.25	0.25
台東	0.25	2.75	1.25	7.75	0.50	9.25		1.00		2.50	0.25
墨田区	0.60	0.60	1.20	1.00		10.80		0.80		0.80	
江東区	1.78	0.22	1.89	6.33	0.22	10.78		0.67		1.22	0.11
品川区	0.38	0.50	1.00	2.13	0.88	6.13	0.13	0.50		1.63	0.13
目黒区	1.20	0.20	1.40	4.00	0.60	16.40	0.40	0.60		2.40	0.20
大田区	1.85	0.62	3.38	5.62	0.23	7.38	0.08	0.46	0.08	2.08	0.08
世田谷	0.88	1.00	2.44	3.50	0.25	9.00	0.13	0.44		3.13	0.75
渋谷区		0.25	0.50	2.50	1.25	7.00		0.50		3.00	
中野区		2.50	2.17	4.33	0.17	18.33	0.33	0.50		3.17	1.17
杉並	0.55	0.18	0.91	1.91		5.27	0.55	0.36	0.09	0.36	
池袋	1.50		1.50	3.25		1.00		0.25		1.00	
北区	0.29	0.86	1.71	3.29	0.14	9.57		0.86		0.29	0.14
荒川区	3.25	3.75	2.00	3.25	3.00	8.00		2.00		2.75	
板橋区		0.10	0.60	1.20		2.00		0.50	0.10	1.00	
練馬区	0.85	0.54	3.46	2.62	0.23	11.46	0.08	0.46		2.54	1.08
足立	0.62	1.08	0.46	4.54	0.08	7.08	0.08	0.62		3.31	
葛飾区	0.13	0.13	1.00	4.63	0.13	8.75	0.25	0.38		3.38	
江戸川	1.33	1.75	2.58	4.67		12.33	0.17	0.92		3.67	0.25
八王子市	0.45	1.73	2.64	9.36		15.09	0.09	0.73		2.64	0.55
町田市		1.13	2.88	7.00	0.25	10.13		0.50		1.63	1.13
西多摩		0.75	1.13	2.00	1.13	3.75	0.13	0.25	0.13	1.88	0.63
南多摩	0.89	1.00	1.00	4.67	0.11	5.33		0.67		2.67	0.56
多摩立川	0.07	0.07	1.79	2.93	0.29	6.57	0.14	0.29		0.29	0.14
多摩府中	0.89	0.58	1.26	4.79	0.26	6.58	0.05	0.58		1.74	0.32
多摩小平	0.87	2.07	4.47	5.27	0.60	15.87		1.20		2.13	0.20
島しょ			2.00			2.00					
東京都	0.85	0.94	1.85	4.14	0.33	8.77	0.10	0.60	0.02	1.98	0.33

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区					3.00						
みなと		0.17									
新宿区		0.25			1.00						
文京					1.00						
台東											
墨田区			0.25		2.00	1.00					
江東区		0.44			1.00						
品川区					1.00						
目黒区			0.13								
大田区		0.15			0.50						
世田谷		0.13	0.16			0.50					
渋谷区			0.29		1.00						
中野区		0.33			1.00						
杉並					2.00						
池袋					1.00						
北区											
荒川区			0.43		1.00						
板橋区		0.10			0.50						
練馬区		0.15	0.10		1.50						
足立			0.20		0.50						
葛飾区		0.25			1.00						
江戸川					1.00						
八王子市		0.55			0.50						
町田市		0.13									
西多摩					1.00						
南多摩											
多摩立川			0.05								
多摩府中	0.05	0.47	0.57	0.33	0.67			0.33			0.67
多摩小平		0.20	0.09		1.00			0.50			
島しょ											
東京都	0.00	0.14	0.09	0.03	0.79	0.08		0.08			0.08

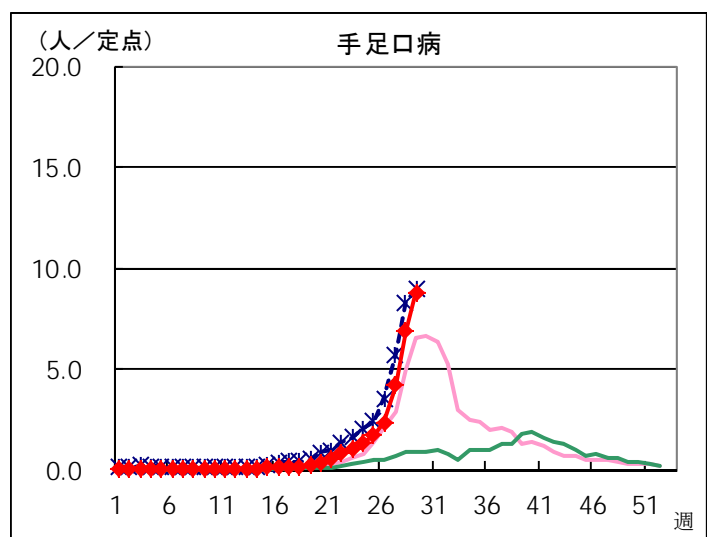
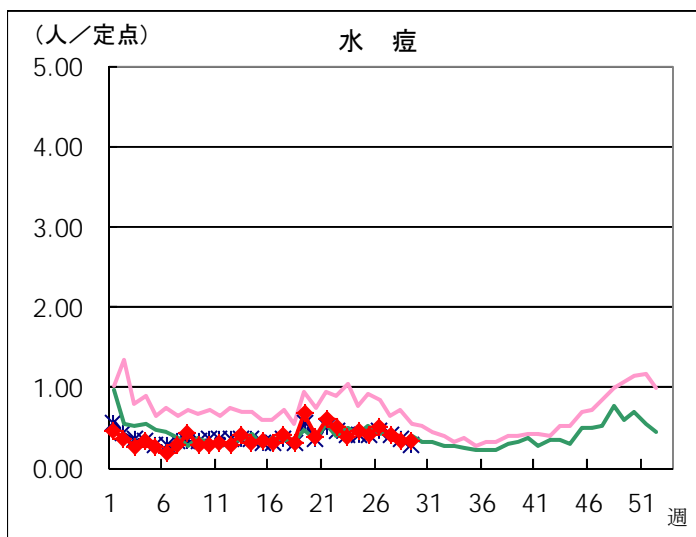
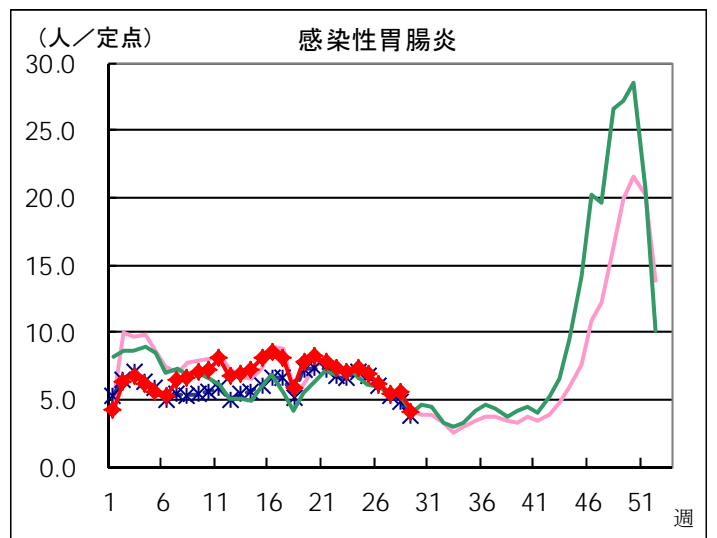
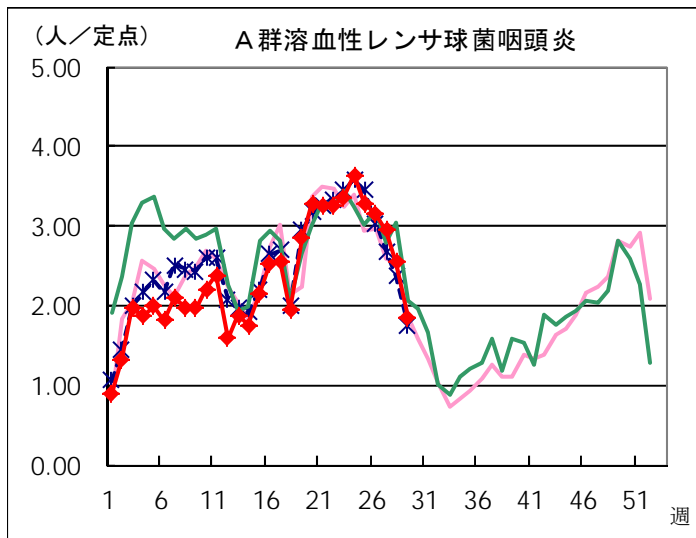
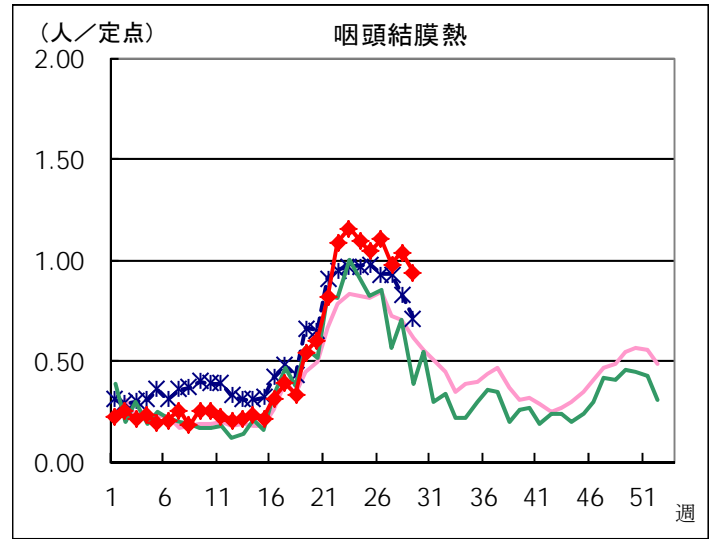
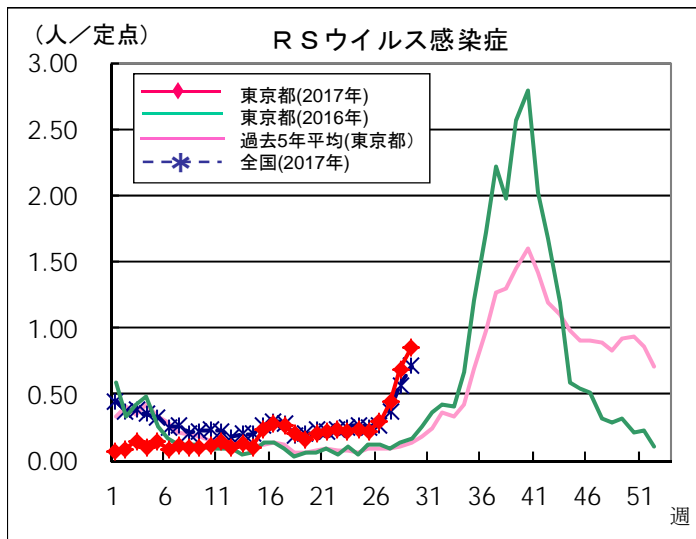
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2017年29週

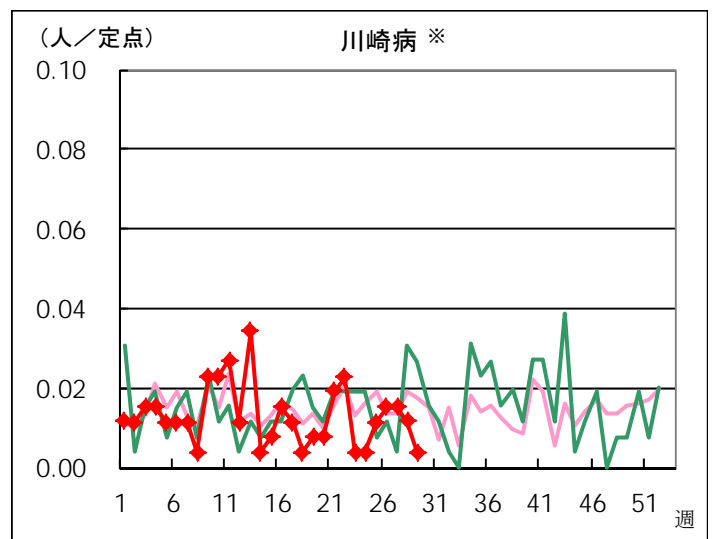
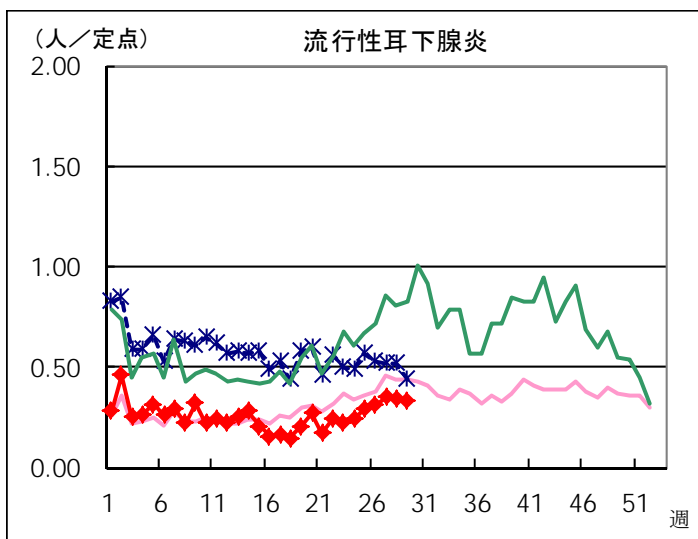
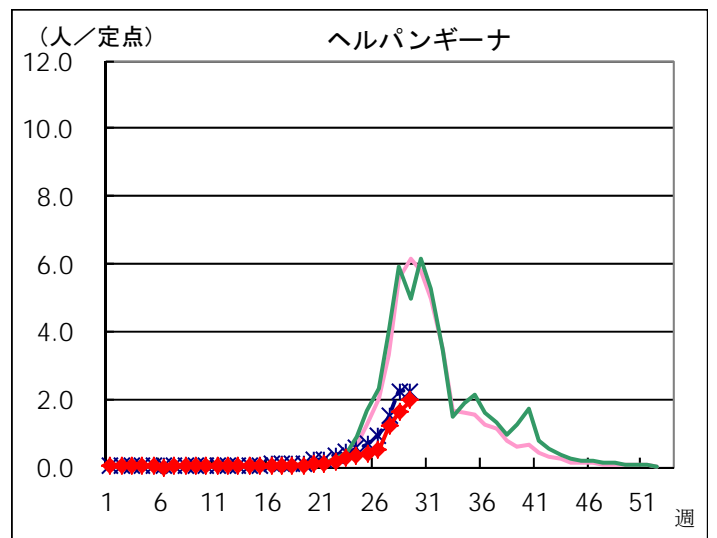
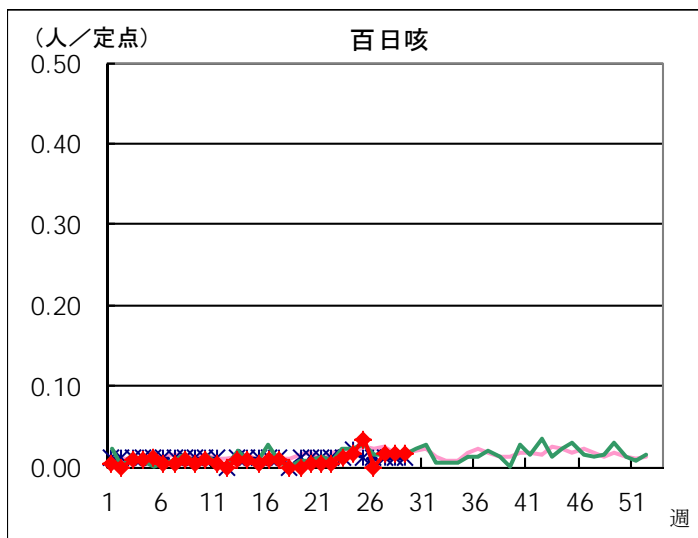
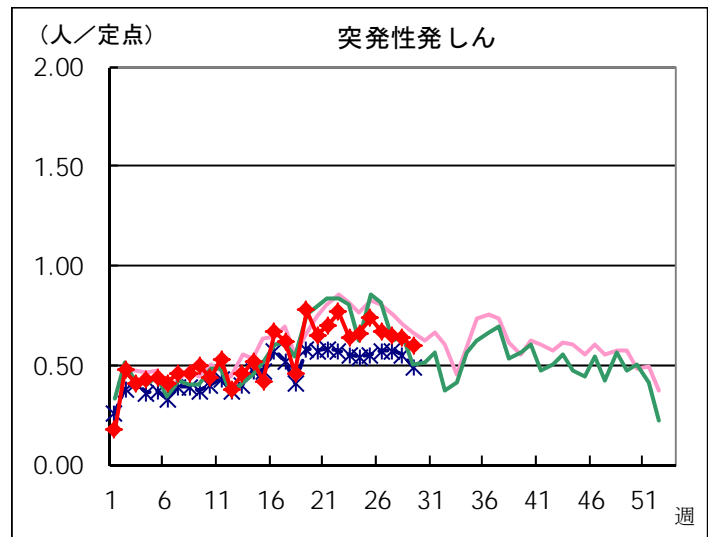
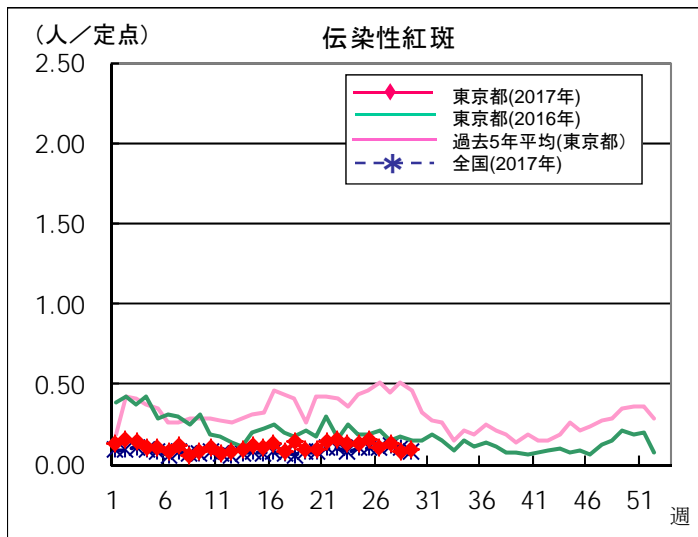
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				2	1	1				2	
中央区	3	4	3	32	3	31		4		4	1
みなと	11	10	4	24	1	47		5		5	4
新宿区	31	12	11	25	3	58		3		14	2
文京	4	5	5	6	2	34				5	1
台東	1	11	5	31	2	37		4		10	1
墨田区	3	3	6	5		54		4		4	
江東区	16	2	17	57	2	97		6		11	1
品川区	3	4	8	17	7	49	1	4		13	1
目黒区	6	1	7	20	3	82	2	3		12	1
大田区	24	8	44	73	3	96	1	6	1	27	1
世田谷	14	16	39	56	4	144	2	7		50	12
渋谷区		1	2	10	5	28		2		12	
中野区		15	13	26	1	110	2	3		19	7
杉並	6	2	10	21		58	6	4	1	4	
池袋	6		6	13		4		1		4	
北区	2	6	12	23	1	67		6		2	1
荒川区	13	15	8	13	12	32		8		11	
板橋区		1	6	12		20		5	1	10	
練馬区	11	7	45	34	3	149	1	6		33	14
足立	8	14	6	59	1	92	1	8		43	
葛飾区	1	1	8	37	1	70	2	3		27	
江戸川	16	21	31	56		148	2	11		44	3
八王子市	5	19	29	103		166	1	8		29	6
町田市		9	23	56	2	81		4		13	9
西多摩		6	9	16	9	30	1	2	1	15	5
南多摩	8	9	9	42	1	48		6		24	5
多摩立川	1	1	25	41	4	92	2	4		4	2
多摩府中	17	11	24	91	5	125	1	11		33	6
多摩小平	13	31	67	79	9	238		18		32	3
島しょ			2			2					
東京都合計	223	245	484	1,080	85	2,290	25	156	4	516	86

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田											
中央区					3						
みなと		1									
新宿区		2			2						
文京					1						
台東											
墨田区			2		2	1					
江東区		4			1						
品川区					1						
目黒区			1								
大田区		2			1						
世田谷		2	4			1					
渋谷区			2		1						
中野区		2			1						
杉並					2						
池袋					1						
北区											
荒川区			3		1						
板橋区		1			1						
練馬区		2	2		3						
足立			4		1						
葛飾区		2			1						
江戸川					2						
八王子市		6			1						
町田市		1									
西多摩					1						
南多摩											
多摩立川			1								
多摩府中	1	9	17	1	2			1			2
多摩小平		3	2		2			1			
島しょ											
東京都合計	1	37	38	1	31	2		2			2

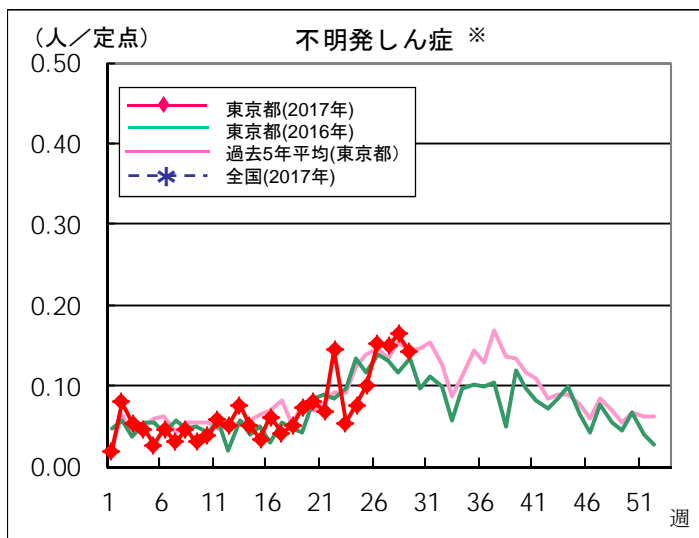
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2017年29週 現在)

◆ 小児科定点



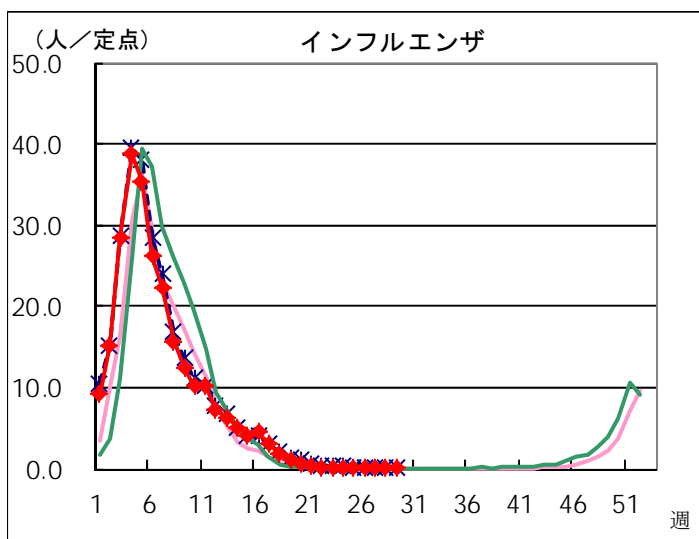


※ 東京都独自対象疾患

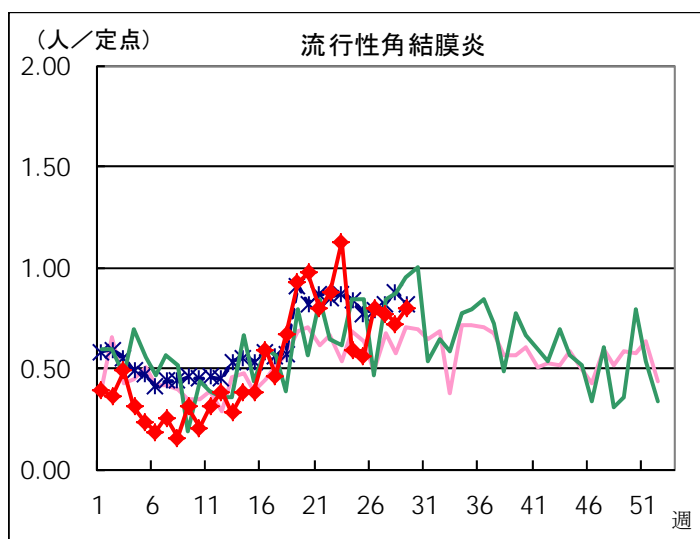
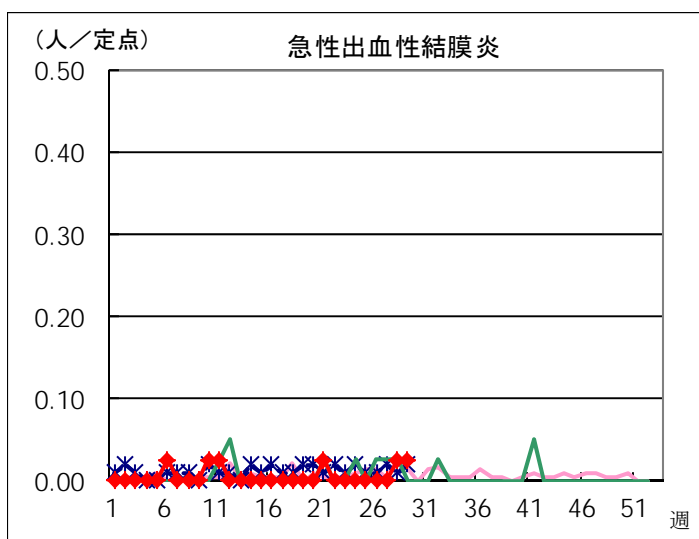


※ 東京都独自対象疾患

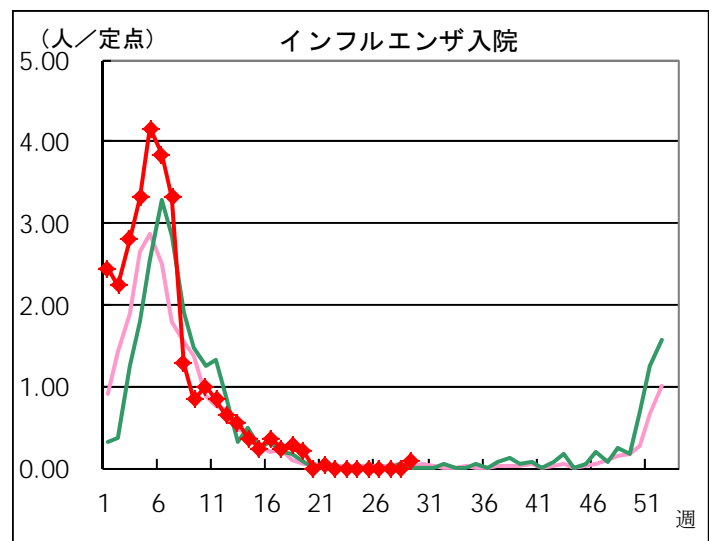
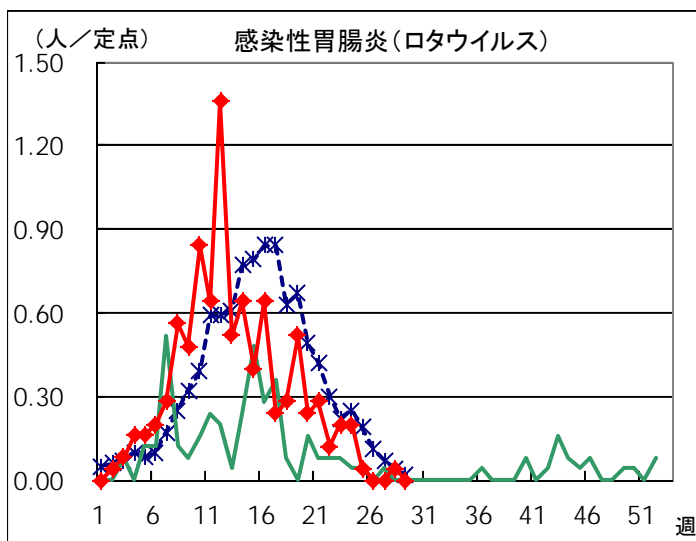
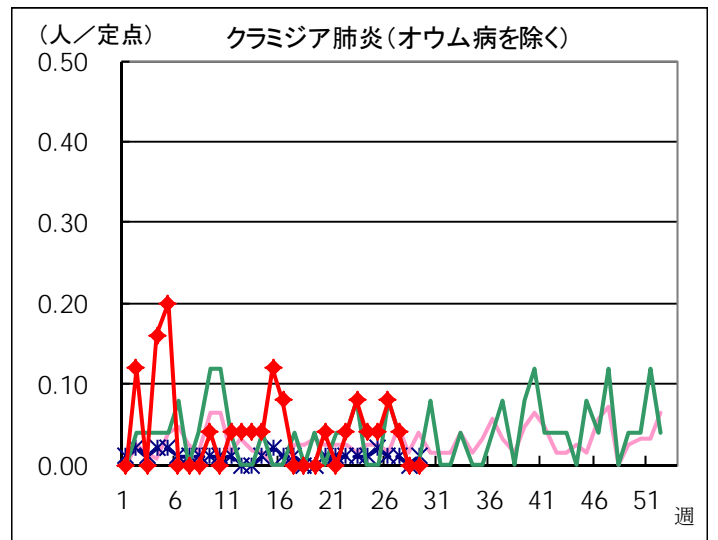
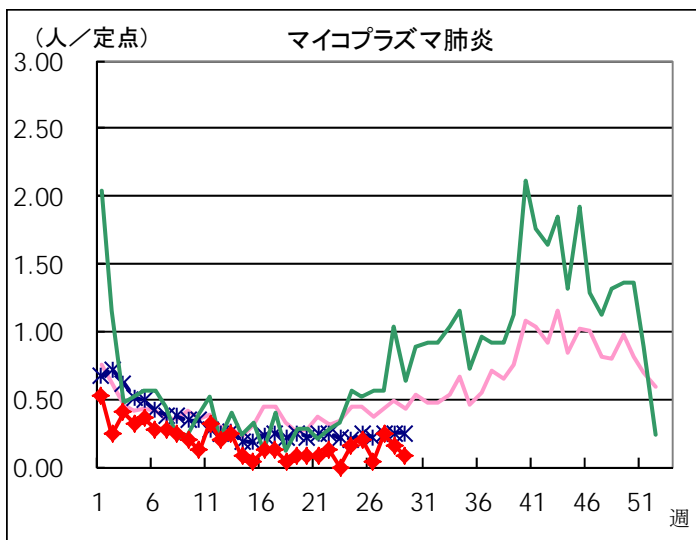
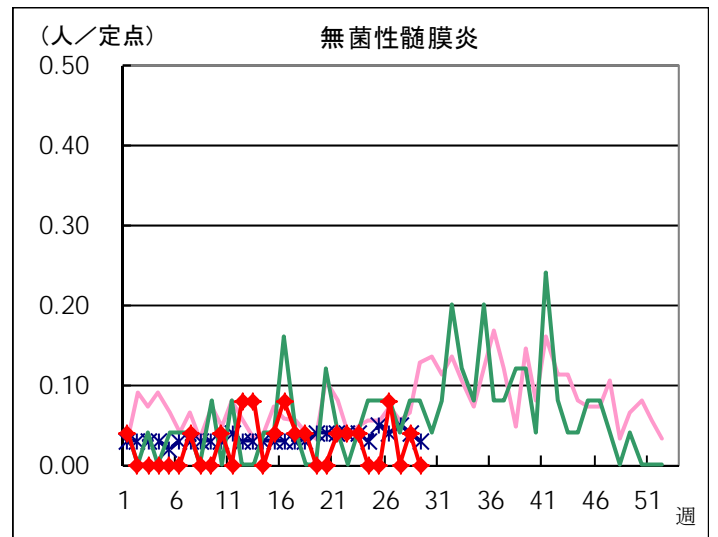
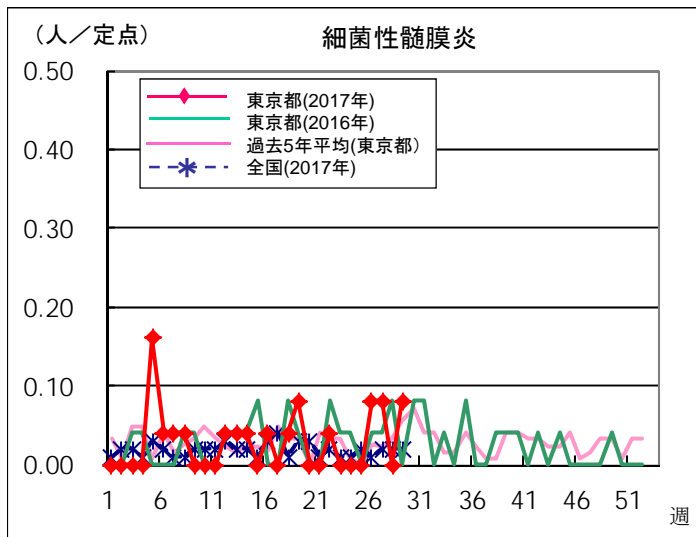
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
6/23	感染性胃腸炎	7	直腸拭い液	アデノウイルス
6/29	突発性発しん	4	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
6/30	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/1	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/3	手足口病	0	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/3	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/3	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/3	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/3	不明発しん症	2	咽頭拭い液	エコーウイルス9型 ヒトヘルペスウイルス7型
7/3	流行性耳下腺炎	4	咽頭拭い液	EBウイルス
7/4	ヘルパンギーナ	6	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群10型
7/4	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型
7/4	不明発しん症	6	咽頭拭い液	ライノウイルス
7/7	感染性胃腸炎	4	便	ノロウイルスGⅡ

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2017年27週			1	
2016-2017年 シーズン累計*	7		306	111

* 2016-2017年シーズンの開始は第36週(2016年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2017年							
	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
アデノウイルス	1	2	4	2	3	1	3	
コクサッキーウイルスA群	1	2	2	1	3	3	3	6
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス					1			1
エンテロウイルス71	1	2	1		2		2	
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス	1		2	2	2	1	1	1
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス		1						
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	4	3			3	5	2	4
EBウイルス								1
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	2		1	1	1	4		
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)						1		
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19	1			1				
RSウイルス		1	1	1				
ノロウイルス			1			1		1
ロタウイルス	1	2	1	2	1			
サポウイルス			1					
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	1				1	1		1
インフルエンザウイルスB型	3	2	1					
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
その他のウイルス			1	1			1	
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								
A群溶血性レンサ球菌T-12型		1	2					
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1				
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ	1							
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

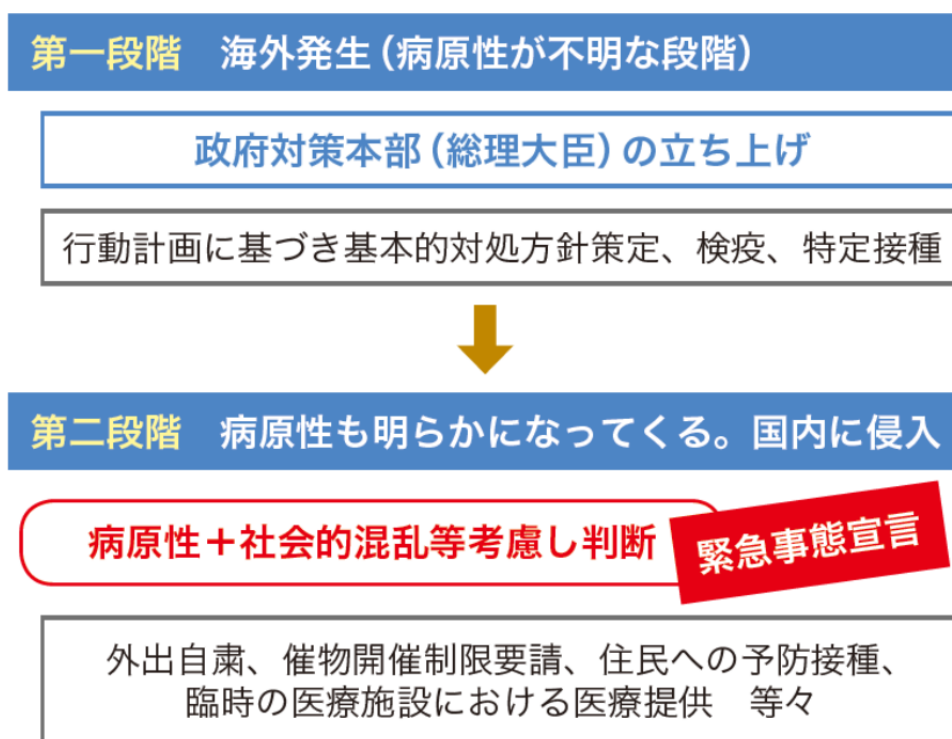
2017年20週～2017年27週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	4	15	5	20	3	26	7	9	2	9	16	2	29	11	12		1		15	1	
アデノウイルス		6		4						1				1	3		1				
コクサッキーウイルスA群						16				5											
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス							1						1								
エンテロウイルス71						6		1											1		
その他のエンテロウイルス																					
ライノウイルス	2	2								1			4	1							
ヒトメタニューモウイルス																					
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1				1		8		1			9						1		
EBウイルス											1										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											8									1	
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)														1							
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19							2														
RSウイルス	3																				
ノロウイルス				3																	
ロタウイルス				7																	
サボウイルス				1																	
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型															4						
インフルエンザウイルスB型															6						
インフルエンザウイルスAH1pdm09																					
その他のウイルス				2									1								
A群溶血性レンサ球菌T-1型																					
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型																					
A群溶血性レンサ球菌T-12型				3																	
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																					
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					1
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

新型インフルエンザ対策

日本国外における鳥インフルエンザのヒトへの感染事例は、「H5N1」が、2003年から2017年3月16日現在で858症例（内、死亡453）、「H7N9」が2013年3月以降1,329症例（死亡492で2017年1、2月だけで352症例（死亡140））であり、中国を中心に発生している（2017年3月30日開催の「新型インフルエンザ対策有識者会議」資料）。双方とも新型に変異しない鳥インフルエンザの段階で感染症法の2類感染症、検疫法の検疫感染症に位置づけられている。また、まだ発生していない新型インフルエンザ等に対して制定された「新型インフルエンザ等対策特別措置法」では、以下の対応が想定されている（有識者会議資料から抜粋）。



一方で、H5N1株プレパンデミックワクチンの備蓄と特定接種対象の登録、パンデミック発生後、より早期に住民への予防接種を供給するための製造体制の整備等、国の検討が進められている。また、タミフル、リレンザの備蓄に加え「ファビピラビル（アビガン）備蓄に関する見解」が2017年3月30日付けで新型インフルエンザ有識者会議のホームページにアップされた。市場に流通していない本剤は国が管理し、強毒性かつノイラミニダーゼ阻害薬4剤すべてに耐性時の使用、妊婦への禁忌等、本剤の使途・投与対象者・投与方法等を示す診療ガイドラインを作成するとされており、国の方針が待たれる。

新型インフルエンザも飛沫・接触感染が主とされており、日々の診療の中での実践トレーニング、関係機関での特別措置法や行動計画、業務継続計画（BCP）等を踏まえた対策訓練を積み重ねてきている。

（文責 江戸川保健所長 山川博之）